

手をたずさえて

- 自ら学ぶ生徒
- 正しく行動する生徒
- 健康でたくましい生徒



平成30年6月12日(火)発行
【発行責任者】郡山市立富田中学校長 熊坂 洋

“克己心”

“己(おのれ)の弱い気持ちを克服する心” いざ！県中地区大会へ



6月8日(金)には、中体連県中地区大会壮行会が行われました。県中地区大会に出場する男女ソフトテニス部、男子バスケットボール部、女子卓球部、男女剣道部〔13日(水)・14日(木)〕、特設水泳部〔20日(水)・21日(木)〕に対する壮行会でした。



今野君に手伝ってもらいました

目標達成に向けた一筋の道を進む過程で、「楽をしたい」「手を抜きたい」「逃げ出したい」「人のせいになりたい」などの思いが沸き起こった時、そんな自分の弱気にいかにブレーキをかけることができるか、そのために必要なものが『克己心』です。己(おのれ)の弱い気持ちを克服する心です。ピンチになったら、『克己心』を思いだそう。そして、いつも言うように、「部員全員で戦うこと」「マナーでも勝つことも」も忘れないでほしい。県中大会に進むことができなかった生徒達のみで、選ばれし者としての自信と誇りをもって、最後まであきらめることなく戦い抜いてください。各部の健闘を祈ります！

～壮行会 校長激励のことば～



女子卓球部の円陣



特設水泳部の選手紹介

生徒会役員の佐々木楓花さんの激励のことばがあり、各部の選手紹介、決意表明が行われました。大会に向けた思いがしっかり伝わってきました。その後、応援団が登場し、全校生徒による応援が体育館いっぱいに響き渡りました。いつもながら、応援団のリードは立派でした。この日のために朝練を続けてくれた応援団の生徒達に感謝します。最後には、各部の部長が登場し、代表して男子バスケット部の上野龍信君がお礼のことばを述べました。また、壮行会では選手入退場の際に演奏で志気を高めてくれる吹奏楽部の生徒達にも感謝します。県中大会に出場する部の生徒達には、県大会への出場を目指し、その力を思う存分発揮してくれることを大いに期待しています。

保護者の皆様へ 部活動での温かい応援、PTA活動へのご協力に感謝いたします！

- 常日頃から、保護者の皆様の部活動へのご支援・ご協力に感謝申し上げます。練習試合、講習会等での送迎、大会やコンクールでの温かい応援等、本当にありがとうございます。
- 6月3日(日)に実施した第1回PTA奉仕作業への多数のご参加、ありがとうございました。プール掃除をはじめ、除草や窓ふきなどに効率よく取り組んでいただき、おかげさまで各箇所がきれいになりました。
- 6月1日(金)には、第1回PTA実行委員会も行われました。本部役員、各委員会の役員の方々にご参集いただき、ありがとうございました。PTA活動も本格的にスタートをきることができます。



講演者プロフィール

日本空港テクノ(株)
環境マイスター

新津 春子氏

(にいつ はるこ)



『清掃はやさしさ』

「郡山掃除に学ぶ会」主催の講演会から

本校で開催された「郡山掃除に学ぶ会」掃除実習の前日5月26日(土)には、ホテルハマツにおいて「郡山掃除に学ぶ会」主催の講演会・交流会が行われ、その会に参加し、素晴らしい人に出逢うことができました。イギリスにある世界最大の航空業界格付け会社スカイトラックス社が公開している格付けランキングで、2013年・14年の2年連続で“世界で最も清潔な空港”に選ばれた羽田空港。その荣誉の裏に、ひとりの女性の長年の努力が存在していました。「羽田空港に、日本一の清掃員がいる」…彼女の名は新津春子。羽田空港国際線ターミナル、第1・第2ターミナル清掃の実技指導者です。その新津さんの講演会に参加することができました。演台は『清掃はやさしさ』でした。

新津さんは中国残留孤児の子として中国に生まれました。1987年、日中国交正常化により、17歳の時に家族5人で日本に移住しました。日本に帰国したものの、家族全員が日本語ができなかったため、仕事もなかった。でも言葉ができなくても清掃はできるということで、それから20年以上、ずっと清掃の仕事に携わったそうです。1995年に日本空港テクノ会社に入社し、羽田空港の清掃員となり、1997年には、その地道な努力が実り「全国ビルクリーニング技能競技会」全国大会で史上最年少となる優勝を果たしました。NHK「プロフェッショナル仕事の流儀」、日本テレビ「NEWS ZERO」などでも取り上げられ、「日本一の清掃員」として話題になりました。

新津さんは笑顔を絶やすことのない、想像よりも小柄で細身の、元気のいい女性でした。「清掃の仕事は確かにきついです。3K(きつい、危険、きたない)って言われてる。まだ社会的地位も低いと思う。でも、だから何? 私は気にしてない。だって私はこの仕事が好きだから」講演会では、NHK「プロフェッショナル仕事の流儀」のDVDが放映されました。現場での新津さんは、とにかく生き生きとして、清掃を心底楽しんでいる、まるで少女のようでした。普通なら見逃しそうなわずかな汚れを数十メートル離れた所から見つけ、「あった!」と叫ぶと、嬉々として落とすいくのです。そのために使う洗剤は80種類を超え、自ら清掃道具を開発してまでキレイにしようとするこだわりぶり。彼女の清掃の徹底ぶりは、床、ガラス、鏡、便器、あらゆるものに及び、まるで空間そのものを清掃しているかのようでした。

新津さんは、自らの“仕事の流儀”をこう表現しました。「心を込める、ということです。心とは、自分の優しい気持ちですね。清掃をするものや、それを使う人を思いやる気持ちです。心を込めないと本当の意味で、きれいにできないんですね。そのものや使う人のためにどこまでできるかを、常に考えて清掃しています。心をこめればいろんなことも思いつくし、自分の気持ちのやすらぎができると、人にも幸せを与えられると思うのね」掃除は誰もが常日頃していると思いますが、例えば水回りや汚れた所を掃除する時、面倒くさがってしまいます。嫌な気持ちになり、汚れに見て見ぬふりをしてしまうこともあります。汚れたものを思いやることや、やさしさを持つこと、考えも及ばないことでした。それを新津さんは自分のためではなく、自然と、そこを使う誰かのためにしているのです。

新津さんは、決して順風満帆な半生を送られてきたわけではありません。残留日本人孤児2世というだけで中国でも日本でもいじめにあい、自らの居場所を見いだせずにいるそうです。さらに日本に帰国した際は十分な蓄えもなく、一時はパンの耳を食べて過ごした日々もあったと言います。それでも、決して後ろを振り向くことはしない。誰に気づかれなくてもいい。誰に認められなくてもいい。ただ、この場を使う人がキレイだって喜んでくれるだけで救われる。新津さんは、今は十分幸せな人生を送っている、と言っていました。「私は、清掃の仕事が好きです。自分にとって大事なことがはっきりしていれば、誰が何を言っても、左右されることはありません」…新津さんは、そう言いぎりました。本当に強い信念です。

